

文章のなかでの区分レベルである章、節、項を番号で標示する方法はかなり以前から標準化されている。その基本となる国際規格は ISO 2145:1978 Documentation - Numbering of division and subdivision in written documents である。縦書きの日本語文には適用できないが、横書きではかなり普及している。使用例を以下に示す。

- 1
- 2     2.1
- 2.2
- 2.3
- . . .
- 2.11.1
- 2.11.2
- . . .
- 2.11.11

階層の数を制限してはいないが、あまり多いと読み書きに苦勞するので、3 段階（章、節、項）までにとどめることが多いようだ。

この国際規格に対応する日本工業規格（JIS）は制定されていないが、JIS Z 8301:2008「規格票の様式及び作成方法」の 5.2.2 箇条の項に類似の規定があり、附属書 A に実例を挙げている。なお、JIS では第 5 階層までの使用を認めている。

細分箇条の中に複数の事項を含み、これらを列記する必要がある場合には、a), b), c), …, 1), 2), 3), …, i), ii), iii), …などを使用する。

（太田泰弘）

この連載コラムの 5 回目に「コード」と「コード要素（識別子）」との使い分けを指摘しておいた。「コード」を標題とする日本工業規格は 14 件ほど制定されているが、両者の使い分けが徹底しているとは思えない。以下に定義の実例を紹介する。

「コード」(code) の定義：

JIS X 0004 コード（体系）、符号（体系）：第 1 の集合の要素を第 2 の集合の要素に対応付けさせる規則の集まり

コード化集合、符号化集合：コードに従って、他の要素の集合に対応づけられている要素の集合

コード化文字集合、符号化文字集合：各要素が単一の文字からなるコード化集合

コード値、コード要素、符号値、符号要素：コード化集合の一つの要素にコードを適用した結果

コード（要素）集合、符号（要素）集合：コード化集合の全要素にコードを適用した結果

JIS X 0304 あらかじめ設定した規則の集合に従って別の形にデータ変換またはデータ表現をおこなうもの

JIS X 0701 ①ある言語を別の言語に変換するための規則の集合；②あらかじめ設定された規則の

集合に従って異なった形式に変換または表現されたデータの集合

「識別子」(identifier) の定義：

JIS B 3503 文字または下線記号で始まり、言語要素を名付ける文字、数字および下線記号の組み合わせ

JIS X 0004 データ要素を識別し又は名付け、必要に応じてデータ要素の性質を示すために使用される一つ以上の文字

JIS X 0015 (プログラム言語における)言語構成要素を名付ける構文素

JIS X 4151 識別するための単一の文字列

「コード」には文字列および文字列集合という 2 つの定義があり、前者には「コード要素」という別の用語が用意され、「コード要素」と「識別子」は同義語となる。この混乱を避けるため、「識別子」が優先的に使われるようになったらしい。JIS X 0004 に引用された事例では、3 文字からなる空港略称は識別子、空港略称のリストはコードである。

参考資料：太田泰弘. 「コード」という専門用語. 情報知識学会誌, 2002, vol.12, no.1. p.59-62

（太田泰弘）